

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第 27 回幹事会議事次第

- 1 日時： 令和 6 年 4 月 22 日（月）13 時 30 分～14 時 30 分
- 2 場所： オンライン（Zoom）
- 3 出席者： 寶（会長）、甘利（副会長）、遠藤（副会長）、岡島、石濱
オブザーバー：林（東京海上日動）
陪席者：松室（防災科学技術研究所）、松本（〃）、小松原（セコム）、
大貫（筑波大学）、増田（〃）、栗原（〃）、酒井（〃）、根本（〃）

（敬称略）

4 議事

I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案

- (1) コンソーシアムと筑波大生の交流企画について……………資料 1
 - ・令和 6 年度実施企画（第 1 回・第 2 回）の方向性確認
 - ・第 1 回の詳細検討（タイトル・日程・内容）
- (2) 令和 6 年度コンソーシアムの行事について……………資料 2
 - ・単独開催シンポジウムの詳細検討
 - 10 月 18 日(金) 13:00-17:00 東京開催（タイトル・内容・登壇者・場所未定）
 - ・第 17 回運営委員会&参画機関見学会（11 月）の開催地検討
 - 未開催機関：NEC、東急プロパティ、東急総研、DRI、電中研、電子航法研、労安研
- (3) 巨大災害研究会・R2EC 合同シンポジウム開催報告……………資料 3
- (4) その他

II. 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

- (1) 令和 5 年度修了者の進路報告について……………資料 4
- (2) 令和 5 年度コンソーシアム参画機関の修了者数について……………資料 5
- (3) 令和 6 年度コンソーシアム参画機関の学生数について……………資料 6
- (4) 令和 6 年度協働大学院教員の指導する学生数について……………資料 7
- (5) 参画機関向け学位プログラムリーフレットの更新について……………資料 8
- (6) その他

（配付資料）

- 資料 1 コンソーシアムと筑波大生の交流企画について（案）……………p.3-
- 資料 2 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 令和 6 年度年間活動計画……………p.8
- 資料 3 巨大災害研究会・R2EC 合同シンポジウム開催記録……………p.9-
- 資料 4 令和 5 年度修了者 進路報告……………p.12
- 資料 5 コンソーシアム参画機関 年度別修了者数一覧……………p.13
- 資料 6 コンソーシアム参画機関 年度別在籍学生数一覧……………p.14
- 資料 7 協働大学院教員 年度別指導学生数一覧……………p.15
- 資料 8 参画機関向けリスク・レジリエンス工学学位プログラムリーフレット……………p.16-

コンソーシアムと筑波大生の交流企画について(案)

本企画の概要・目的等については別紙 1-a を確認いただき、以下について決定いただきたく、
よろしくお願い申し上げます。

1. 令和 6 年度実施企画について(別紙 1-a)

今年度の実施回数、および開催時期を決定いただきたい。

2. 第 1 回について(別紙 1-b)

以下について決定いただきたい。 → 幹事会終了後、参画機関に参加依頼送付

- イベント名称の決定
- 開催日時の決定
 - ・第 1 候補 月 日() 時～ 時
 - ・第 2 候補 月 日() 時～ 時
 - ・第 3 候補 月 日() 時～ 時
- 参画機関への依頼文書(案)の確認
- 学生への告知方法検討
 - ・大学の各種 Web サイトでの告知(就職課、研究群、学位プログラム)
 - ・学生メーリングリストでの告知
 - ・教育会議等における教員への協力依頼

(参考)今後のスケジュール

- 4 月 第 27 回幹事会(4/22)で日程決定後、参画機関への参加依頼(×切:5/7)
- 5 月 チラシ作成(～5/17)、学生への告知・参画機関への配付(5/20～)
- 6～7 月 開催

3. 第 2 回について

開催時期と方向性を確認いただきたい。 → 第 7 回総会(R6.5.27)で時期・内容決定予定

コンソーシアムと筑波大生の交流企画について(概要)(案)

令和5年度より、コンソーシアム運営委員会・幹事会において、コンソーシアム参画機関と筑波大学の優秀な学生の交流(就職や共同研究)を意図した取組みの実施を継続検討してきた。第16回運営委員会(R6.3.6開催)において各参画機関にいただいた意見をふまえ、令和6年度は以下の取組みを実施することを提案する。

- ・第1回:令和6年6～7月に「A」を実施(詳細別紙)
 - ・第2回:令和6年10～12月に「A～C」のいずれかを実施
- 但し、第2回目については、第7回総会(R6.5.27)において方向性を確認のうえ、決定したい

A. キャリア関連イベント

「筑波大生×レジリエンス研究教育推進コンソーシアム キャリアマッチングデー(仮称)」

- ・趣旨:参画機関に筑波大学の優秀な学生を就職させることを目的に、参画機関から筑波大生にインターンシップや就職に関する情報提供を行う
- ・参加者:
 - 【筑波大学側】
 - ・大学院生:システム情報工学研究群の学生(リスク・レジリエンス工学、社会工学、サービス工学、情報理工、知能機能システム、構造エネルギー工学、エンパワーメント情報学)
 - ・学部生:システム情報工学研究群関連学類の学生(社会工学、工学システム、情報科学等)
 - 【参画機関側】
 - ・各参画機関の人事担当者、コンソーシアム委員等

B. 研究交流イベント

「筑波大生×レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 研究マッチングデー(仮称)」

- ・趣旨:参画機関の研究者と筑波大生(大学院生)が互いに研究シーズを紹介し、共同研究や研究を活かした就職の可能性を探る
- ・参加者:
 - 【筑波大学側】
 - ・大学院生:システム情報工学研究群の学生(リスク・レジリエンス工学、社会工学、サービス工学、情報理工、知能機能システム、構造エネルギー工学、エンパワーメント情報学)
 - ※聴講者として学部生の参加も歓迎
 - 【参画機関側】
 - ・各参画機関の研究従事者(協働大学院教員を含む)、コンソーシアム委員等

C. キャリア・研究交流イベント

「筑波大生×レジリエンス研究教育推進コンソーシアム キャリア・研究マッチングデー(仮称)」

- ・AとBを組み合わせて開催する

令和6年4月●日

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 参画機関 各位

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム
会長 寶 馨

第1回・コンソーシアムと筑波大生の交流企画
「筑波大生×レジリエンス研究教育推進コンソーシアム キャリアマッチングデー（仮称）」
への参加について（依頼）

このたび、レジリエンス研究教育推進コンソーシアムでは、コンソーシアム参画機関に筑波大学の優秀な学生を就職させることを目的としたイベントを別添のとおり実施することとなりましたので、ご多忙中誠に恐縮ではございますが、ご参加いただきますようお願い申し上げます。

つきましては、お手数ではございますが、参加の有無を各参画機関内でお取りまとめのうえ、5月7日（月）までに参加回答票（別添）によりコンソーシアム事務局（r2ec-sec@risk.tsukuba.ac.jp）宛てにご提出くださいますようお願いいたします。

記

添付書類

1. 第1回・コンソーシアムと筑波大生の交流企画
「筑波大生×レジリエンス研究教育推進コンソーシアム キャリアマッチングデー（仮称）」
の開催について（案）
2. 参加回答票

◆本件問合せ先

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム事務局
（筑波大学システム情報エリア支援室） 担当：根本
r2ec-sec@risk.tsukuba.ac.jp

第1回・コンソーシアムと筑波大生の交流企画
「筑波大生×レジリエンス研究教育推進コンソーシアム キャリアマッチングデー（仮称）」
の開催について（案）

イベント名	「筑波大生×レジリエンス研究教育推進コンソーシアム キャリアマッチングデー（仮称）」
趣旨	参画機関に筑波大学の優秀な学生を就職させることを目的に、参画機関から筑波大生にインターンシップや就職に関する情報提供を行う
開催日程（候補日）	令和6年6月1日（土）～22日（土）、7月8日（月）～19日（金） ※6月28日（金）～7月5日（金）、12（金）は大学行事により不可
開催場所	筑波大学（つくばキャンパス）
プログラム	① 全体セッション（各機関によるプレゼン：インターンシップ・就職情報提供） ② 学生との個別相談（インターンシップ・就職相談等）
想定する参加者	【筑波大学側】 ・大学院生：システム情報工学研究群の学生（リスク・レジリエンス工学、社会工学、サービス工学、情報理工、知能機能システム、構造エネルギー工学、エンパワーメント情報学） ・学部生：システム情報工学研究群関連学類の学生（社会工学、工学システム、情報科学等） 【参画機関側】 ・各参画機関の人事担当者、コンソーシアム委員等

第1回・コンソーシアムと筑波大生の交流企画
「筑波大生×レジリエンス研究教育推進コンソーシアム
キャリアマッチングデー（仮称）」参加回答票

本回答票は各参画機関内でお取りまとめのうえ、令和6年5月7日（月）までにコンソーシアム事務局
(r2ec-sec@risk.tsukuba.ac.jp)宛てにご回答くださいますようお願いいたします。

機関名：_____

1. 下記のいずれかをお選びください。

☐ 参加する

☐ 参加しない

2. 参加者がお決まりでしたら、【氏名（フリガナ）・所属・職名】をお知らせください。未定の場合には、5月末日までに別途お知らせください。

- 代表者（全体セッションで機関を代表して情報提供を行う者）

・

- その他参加者

・

・

・

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 令和6年度年間活動計画

	コンソーシアム関連				学位プログラム関連	
	総会・運営委員会	幹事会	シンポジウム	その他	入試	その他
令和6年4月		第27回幹事会 4月22日(月) 13:30-14:30 オンライン		筑波大生との交流会(仮) 企画内容・日時・場所未定 ※参画機関との調整により決定	募集要項公表(Web) (4月下旬)	オープンキャンパス 4月21日(日)
5月	第7回総会 &参画機関見学会 5月27日(月) 14:00-17:00 東京海上日動(千代田区 大手町)					
6月						
7月		第28回幹事会 7月24日(水) 13:30-14:30 オンライン			7月実施 前期課程入試(推薦) 7月実施 後期課程入試(一般・社会人) ※R6年10月入学	
8月					8月実施 前期課程入試(一般・社会人) 8月実施 後期課程入試(一般・社会人)	
9月						
10月		第29回幹事会 シンポジウムと同日に 開催予定	単独開催シンポジウム 10月18日(金) 13:00-17:00 東京地区(場所未定)			
11月	第17回運営委員会 &参画機関見学会 (日時・場所未定)					
12月						
令和7年1月					1-2月実施 前期課程入試(一般・社会人) 1-2月実施 後期課程入試(一般・社会人)	
2月		第30回幹事会 2月10日(月) 13:30-14:30 オンライン	合同開催シンポジウム (日時・場所未定)			
3月	第18回運営委員会 &参画機関見学会 (日時・場所未定)					

※総会・運営委員会未開催機関(R6.3.6現在): 日本電気株式会社、東急プロパティマネジメント、東急総合研究所、DRIジャパン、電力中央研究所、電子航法研究所、労働安全衛生総合研究所

巨大災害研究会・レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 合同シンポジウム 「レジリエントな DX 社会をつくるー災害・防災の最前線ー」 開催記録

1. 日時 2024 年 3 月 4 日（月）14:00-17:00

2. 場所

- ① 東京会場 : 筑波大学東京キャンパス文京校舎 120 講義室
- ② 大阪会場 : TKP 新大阪ビジネスセンター ホール 3A
- ③ オンライン: Zoom ウェビナー

3. 参加者数 ※括弧内は事前登録者数

- ① 東京会場 : 39 名 (41 名)
 - ② 大阪会場 : 12 名 (13 名)
 - ③ オンライン: 152 名 (219 名)
- 合計: 203 名 (273 名)

4. 開催記録



◆オープニング

木村 玲欧 氏【大阪会場】
(巨大災害研究会 会長／兵庫県立大学 環境人間
学部・大学院環境人間学研究科 教授)



◆開会挨拶

遠藤 靖典 氏【東京会場】
(巨大災害研究会 副会長／レジリエンス研究
教育推進コンソーシアム 副会長／筑波大学
システム情報系 教授)

◆講演 1「防災・減災総合ソリューション事業の実現に向けて」



川谷 篤史 氏【東京会場】
(東京海上日動火災保険株式会社 dX 推進部
BD (ビジネスデザイン) 室 マネージャー)

講演概要

- ・ 民間企業目線による防災 DX 事業の事例
- ・ 防災減災領域における研究機関・大学との共同研究・共同事業
- ・ 今後の展望: 防災減災領域に特化した新会社
「東京海上レジリエンス」の事業展開

◆講演2『「応急対応 DX」からガバナンスにアプローチする』



永松 伸吾 氏【大阪会場】
(関西大学 社会安全学部 教授／防災科学技術研究所
災害過程研究部門 招へい研究員 (部門長))



折橋 祐希 氏【東京会場】
(防災科学技術研究所 災害過程研究部門
特別研究員)

講演概要

- ・ 防災科学技術研究所 災害過程研究部門が取り組む「応急対応 DX プロジェクト」の概略 (永松氏)
- ・ 令和6年能登半島地震における活動の概略 (永松氏)、石川県輪島市での事例と見えてきた課題 (折橋氏)
- ・ デジタイゼーションとデジタライゼーション (折橋氏)
- ・ 今後の展望 (折橋氏)

◆パネルディスカッション「レジリエントなDX社会をつくる」

パネリスト：

川谷 篤史 氏 (講演1)、永松 伸吾 氏 (講演2)、折橋 祐希 氏 (講演2)
内山 庄一郎 氏 (防災科学技術研究所 マルチハザードリスク評価研究部門 主任専門研究員)
酒井 慎一 氏 (巨大災害研究会 副会長／東京大学 大学院情報学環・学際情報学府 教授)
井ノ口 宗成 氏 (巨大災害研究会 事務局長／富山大学 都市デザイン学部 准教授／
防災科学技術研究所 災害過程研究部門 主幹研究員)

モデレーター：遠藤 靖典 氏、木村 玲欧 氏

ディスカッション概要：

主に以下について討論があった。

- ・ 災害発生時の対応の標準化
- ・ 災害発生時における現地の指揮命令系統と支援者の連携方法
- ・ 防災減災事業のマネタイズ
- ・ ドローン・ロボット・AI等のテクノロジーを活用する際の社会受容性向上や人々のマインドセットの変革の必要性



内山 庄一郎 氏
【東京会場】
(防災科学技術研究所
マルチハザードリスク
評価研究部門 主任専門研究員)



酒井 慎一 氏
【東京会場】
(巨大災害研究会 副
会長／東京大学 大学
院情報学環・学際情報
学府 教授)



井ノ口 宗成 氏【オンライン】

(巨大災害研究会 事務局長／富山大学 都市デザイン学部 准教授／
防災科学技術研究所 災害過程研究部門 主幹研究員)



東京会場の様子

(写真左から) 遠藤氏、川谷氏、
折橋氏、内山氏、酒井氏



大阪会場の様子

(写真左から) 木村氏、永松氏



◆閉会挨拶

寶 馨 氏【東京会場】

(レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 会長
／防災科学技術研究所 理事長)

リスク・レジリエンス工学学位プログラム

令和5年度修了者 進路報告

(単位：人数)

	博士前期 (32名)	博士後期 (10名)
進学 (博士後期)	4	
就職 (参画機関)	27 (1)	2 (0)
職場復帰 (参画機関)	1 (0)	6 (2)
就職活動中	0	1
進学準備中	0	1
未回答	0	0
合計	32	10

リスク・レジリエンス工学学位プログラム
コンソーシアム参画機関 年度別修了者数一覧

(単位：人数)

参画機関 (学生所属先) ※	課程	修了年度			備考
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	
セコム株式会社	M				
	D				
日本電気株式会社	M				
	D		1		
東急プロパティマネジメント株式会社	M				
	D				
NTT宇宙環境エネルギー研究所	M				
	D				
東京海上日動火災保険株式会社	M				
	D				
株式会社東急総合研究所	M				
	D			1*	*早期修了
一般財団法人 DRIジャパン	M				
	D				
一般財団法人 電力中央研究所	M				
	D				
一般財団法人 日本自動車研究所	M				
	D			1*	*早期修了
国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術 研究所 電子航法研究所	M				
	D				
国立研究開発法人 産業技術総合研究所	M				
	D				
国立研究開発法人 防災科学技術研究所	M				
	D		1		
独立行政法人 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所	M				
	D				
國家災害防救科技中心（台湾）	M				
	D				
小計	M	0	0	0	
	D	0	2	2	
合計		0	2	2	

M…博士前期課程、D…博士後期課程

※ 参画機関（学生所属先）は入試出願時データより現職にてカウント。また、参画機関から筑波大学を除く。

リスク・レジリエンス工学学位プログラム
コンソーシアム参画機関 年度別在籍学生数一覧

(単位：人数)

参画機関 (学生所属先) ※	課程	在籍年度					備考
		令和2年度(入学者数)	令和3年度(入学者数)	令和4年度(入学者数)	令和5年度(入学者数)	令和6年度(入学者数)	
セコム株式会社	M						
	D						
日本電気株式会社	M						
	D	1(1)	1(0)	1(0)			R5.3.24修了：1名
東急プロパティマネジメント株式会社	M						
	D						
NTT宇宙環境エネルギー研究所	M						
	D						
東京海上日動火災保険株式会社	M						
	D						
株式会社東急総合研究所	M						
	D				1(1)		R6.3.25修了（早期）：1名
一般財団法人 DRIジャパン	M						
	D						
一般財団法人 電力中央研究所	M						
	D						
一般財団法人 日本自動車研究所	M						R2.8.31退学：1名
	D	1(1)			1(1)		R6.3.25修了（早期）：1名
国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術 研究所 電子航法研究所	M						
	D						
国立研究開発法人 産業技術総合研究所	M						
	D						
国立研究開発法人 防災科学技術研究所	M						R5.3.24修了：1名
	D	2(2)	3(1)	3(0)	1(0)	1(0)	R5.3.31退学：1名
独立行政法人 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所	M						
	D						
國家災害防救科技中心（台湾）	M						
	D						
小計	M	0	0	0	0	0	
	D	4(4)	4(1)	4(0)	3(2)	1(0)	
合計		4(4)	4(1)	4(0)	3(2)	1(0)	

※ 参画機関（学生所属先）は入試出願時データより現職にてカウント。また、参画機関から筑波大学を除く。

リスク・レジリエンス工学学位プログラム/リスク工学専攻

協働大学院教員 年度別指導学生数一覧

(単位：人数)

協働大学院教員 所属機関	教員数 (R6.4.1 現在)	課程	令和 2 年度		令和 3 年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
			主指導学生数	副指導学生数	主指導学生数	副指導学生数	主指導学生数	副指導学生数	主指導学生数	副指導学生数	主指導学生数	副指導学生数
セコム株式会社	1	M		1		1		8		9		調 査 中 （ 第 7 回 総 会 提 示 予 定 ）
		D		3		3		6		8		
一般財団法人 電力中央研究所	1	M		1		4		3		3		
		D		2		1		1				
一般財団法人 日本自動車研究所	2	M		4		3		2		2		
		D		4		5		6		9		
国立研究開発法人 産業技術総合研究所	4	M		3		5		7		11		
		D		6		5		5	1	5	1	
国立研究開発法人 防災科学技術研究所	3	M		3	2	8	3	7	1	2		
		D	2 (2)		3 (3)		4 (3)		3 (1)	4	9 (1)	
独立行政法人 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所	1	M		2		2		2		2		
		D		2		2		4		4		
小計	12	M	0	14	2	23	3	30	1	29	0	
		D	2 (2)	20	3 (3)	16	4 (3)	22	4 (1)	30	10 (1)	
合計			2 (2)	34	5 (3)	39	7 (3)	52	5 (1)	59	10 (1)	

M…博士前期課程、D…博士後期課程

※ 学生数は累計で示す。

※ ()内は、協働大学院教員の所属機関から受け入れた学生数を内数で示す。

産学連携の学位プログラムで

あなたの **知** を 博士(工学)に変えます。
キャリアアップに繋がります。

筑波大学大学院

リスク・レジリエンス工学学位プログラムは
社会人を積極的に受け入れます。

現代社会にひそむ無数の「リスク」
有事からしなやかに復旧する「レジリエンス」

リスク・レジリエンス工学学位プログラムでは、
リスクを工学的方法により分析し、レジリエンス社会の
実現のために活用できる人材を養成します。

リスク・レジリエンス工学学位プログラムは

- 現代社会で必要とされる4つの研究分野で構成

リスク・レジリエンス基盤

情報システム・セキュリティ

都市防災・社会レジリエンス

環境・エネルギーシステム

- 自立した研究者としての研究能力を養成
- 高度専門職業人としての研究能力と豊かな学識を養成
- 博士後期課程(標準3年間)〈学位:博士(工学)〉
- 修了後には大学の客員教員や非常勤講師として人材育成に携わる道も

学位プログラム:達成すべき能力が明示され、それを修得できるように体系的に設計された新しい教育プログラム

レジリエンスで、
未来を見る。

協働大学院方式によるハイブリッドな教育システム

本学の専任教員に加え、レジリエンス研究教育推進コンソーシアム(下記)に
参画する14の企業・研究機関の専門家があなたの知を涵養します。

協働大学院方式



レジリエンス研究教育推進コンソーシアム



詳しくは <https://r2ec.jp>



レジリエンス研究教育推進コンソーシアム

修了生の声

株式会社東急総合研究所

真城 源学 さん (博士後期課程早期修了プログラム 修了
博士(工学)取得)



自身の研究実績の整理整頓作業を通して、より高い研究能力を修得したいと考えていました。この実現には、博士号取得が一番の近道であるとわかってはいたものの、多くの時間と費用がかかる、自身の研究能力向上にマッチした環境があるかなど、様々なハードルがあると捉えていました。

しかし、早期修了プログラムの理解が深まるにつれて、あきらめの気持ちから、チャレンジしてみたいという意欲が湧いていくのが実感できました。実際、入学してみると、精度の高い自己評価の仕組みや、先生方のレベルの高い指導、充実した事務的サポートが用意されていて、働きながら無理なく研究生活を過ごすことができました。

今後は、博士として、その高いプレゼンスを発揮し、自身の研究能力に磨きをかけ、レジリエントな社会の実現に貢献したいと思っています。



筑波大学
University of Tsukuba



リスク・レジリエンス工学 学位プログラム
Master's/Doctoral Program in Risk and Resilience Engineering

リスク・レジリエンス基盤分野

協働大学院教員

日本自動車研究所

教授 安部原也 ドライバ行動、自動車安全性、自動運転
准教授 北島創 自動運転、認知科学、ヒューマンエラー分析

労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所

准教授 岡部康平 労働災害、安全設計、協働ロボット、介護機器

産業技術総合研究所

准教授 佐藤稔久 運転行動の計測・モデル化、運転の楽しさ

専任教員

教授 伊藤誠 安全性、信頼性、ヒューマンファクター
教授 イリチュ(佐藤)美佳 統計科学、ソフトコンピューティング
教授 遠藤靖典 クラスタリング、機械学習、データ解析
准教授 木野泰伸* プロジェクトマネジメント、システム開発
准教授 高安亮紀 数値解析、精度保証付き数値計算、無限次元力学系
准教授 古川宏 認知インタフェース、モバイル、教育・知識
助教 齊藤裕一 人間機械系、システム安全制御
助教 三崎広海 計量経済学、ファイナンス、ビッグデータ

情報システム・セキュリティ分野

協働大学院教員

セコム株式会社

准教授 島岡政基 認証基盤、トラスト、セキュリティ研究倫理

専任教員

教授 面和成 ネットワークセキュリティ、暗号技術の応用
教授 津田和彦* 自然言語処理、情報検索、ソフトウェア工学
准教授 西出隆志 公開鍵暗号とその理論、暗号プロトコル設計
准教授 干川尚人 ネットワークシステム、DX、安否確認
准教授 吉田光男* 計算社会科学、ウェブ情報学、自然言語処理
助教 高橋大成 ブロックチェーン、暗号プロトコル

都市防災・社会レジリエンス分野

協働大学院教員

防災科学技術研究所

教授 白田裕一郎 防災情報、災害動態解析、意思決定支援
教授 酒井直樹 災害リスク、IoT/AI、リモートセンシング
教授 藤原広行 地震・津波に対するハザード・リスク評価

専任教員

教授 鈴木勉 都市解析、空間情報科学
教授 谷口綾子 都市交通計画、リスク・コミュニケーション
准教授 梅本通孝 人的被害軽減のための都市・地域ソフト防災
助教 木下陽平 衛星測地技術の気象利用、SAR、MaaS 利用

環境・エネルギーシステム分野

協働大学院教員

産業技術総合研究所

教授 加藤和彦 太陽光発電システム、火災・感電リスク
教授 田原聖隆 ライフサイクル評価、インベントリデータベース
准教授 頭士泰之 化学物質リスク、ケモインフォマティクス

電力中央研究所

教授 山本博巳 エネルギーシステム分析、低炭素エネルギー

専任教員

教授 岡島敬一 新エネルギー技術・システム評価
教授 庄司学 構造信頼性、地震・津波災害、ライフライン
教授 羽田野祐子 環境動態、放射性核種、福島事故、エアロゾル
助教 秋元祐太郎 燃料電池、非破壊診断、再エネ・EV の融合
助教 鈴木研悟 エネルギーシステム、機械学習、ゲーミング
助教 Abdulrahman Joubi 太陽エネルギー、水素製造、技術経済の評価

*印は東京キャンパス常駐教員です。

本プログラムの社会人を応援するコンテンツ

社会人のための入学試験

- これまでの研究業績や経験を活かせる**社会人特別選抜**を実施します。
- 従来の**4月入学**に加え、**10月入学**が新設されました。
(※受験する入試の種類によります。詳しくはお問い合わせください)
- 試験会場は**つくば**と**東京**から選べます。
- 修士の学位を有していない方も、事前の出願資格審査を経て、出願が可能となります。

柔軟で多様な学修・研究環境

- 希望する指導教員が所属する機関で、研究指導が受けられます。
- 東京キャンパス常駐教員を指導教員に指名することにより、夜間や土曜日に東京で研究指導を受けられます。また、東京キャンパスで開講している授業も受けられます。
- 研究指導は、**複数指導体制**(3名)により、大学の専任教員と協働大学院教員の両方から指導を受けることもできます。

長期・短期の学修計画

- **長期履修制度**を利用すれば、トータルの学費負担は変わらず学修期間を最大5年間に延長できます。
- **早期修了プログラム**により最短1年間で博士号を取得することも可能です。(履修審査あり)

達成度評価によるきめ細かな学修サポート

- 学生ポートフォリオ等の作成を通じて、自らの達成度を確実しつつ学修を進められます。さらに、年2回の個別面談により3名以上の教員から**学修達成度評価**を受け、その結果を学修の改善に役立ててすることができます。
- 必要に応じて、ご自身の専門に関わる科目のほか、大学院共通科目や他研究群の科目などを受講することもできます。

■ 就学に必要な経費 検定料：30,000円 入学料：282,000円 授業料：535,800円(年額)

奨学金制度、研究支援制度、入学料・授業料免除制度等が利用できる場合があります。
また、ご自身の機関にも支援制度がある場合があります。 ※勤務先就業規程もご確認ください。

博士前期(修士)課程もあります。詳しくはプログラムサイトをご覧ください。 <https://www.risk.tsukuba.ac.jp/>

